

チャノコカクモンハマキ

チョウ目ハマキガ科に属し、九州、四国、本州に分布します。以前はリンゴコカクモンハマキと同種と見なされ、一括してコカクモンハマキと呼ばれていました。また、ウスコカクモンハマキとも極めて類似しています。常緑広葉樹やイヌマキ等に常発し落葉樹に移り、庭木、花卉、果菜、雑草等90種以上の植物の加害記録がある広食性の害虫です。農作物では主にチャ、ブドウ、カキ、カンキツ等の果樹類を加害する「ハマキムシ」の一種です。

1. 生態

(1) 成虫

体長約6mm、翅開張は約12mmで、色彩や斑紋は雌雄で多少異なり、淡褐色で雄の前翅に黒褐色の3条の紋があります。年4回発生し、越冬世代が4月下旬～5月下旬、第1世代が7月上旬～下旬、第2世代が8月中旬～9月中旬、第3世代が9月中旬～10月下旬に発生します。寿命は7日程で、夕方に飛翔し交尾・産卵します。

卵は淡黄色で、長さ0.7mm程の扁平な楕円形で、40粒程を1卵塊として3～4回産み付けます。越冬世代から第1世代の成虫は主に葉裏に産卵しますが、ぶどうでは第2世代以降は果房に産卵するものも認められます。

(2) 幼虫

体色は鮮緑色または黄褐色で、老熟すると体長は20mm程になります。落葉の中、樹皮下やハウス資材の中などで中老齢幼虫が越冬し、春に越冬幼虫が芽や展開中の葉を食害し始めます。

2. 被害（ぶどうの食害例）

(1) 葉

若齢期は葉の表皮を残して食害しますが、中齢以降になると暴食するようになります。また隣接した葉を重ね合わせたり、葉縁を折り曲げたり、新梢の先端の未展開葉を綴り合せたりして内部から食害します。綴り合せた葉の中で蛹化します。

(2) 果実

花穂の蕾や花、花梗を綴り合せて食害するので、結実後は食害された部分が空隙になります。果房においては、果粒や果柄の間に糸を吐いて綴り食害し、蛹化します。加害された果粒は汚れて、委縮、腐敗、脱落しやすくなり、被害は葉の食害以上に深刻です。



雄成虫（フェロモントラップ）



幼虫



被害を受けた果房

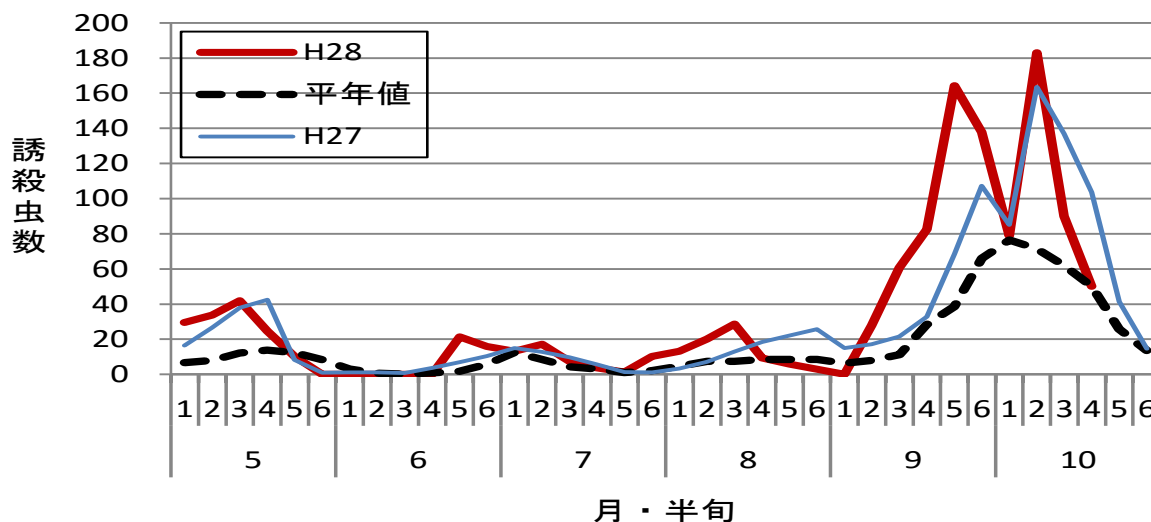
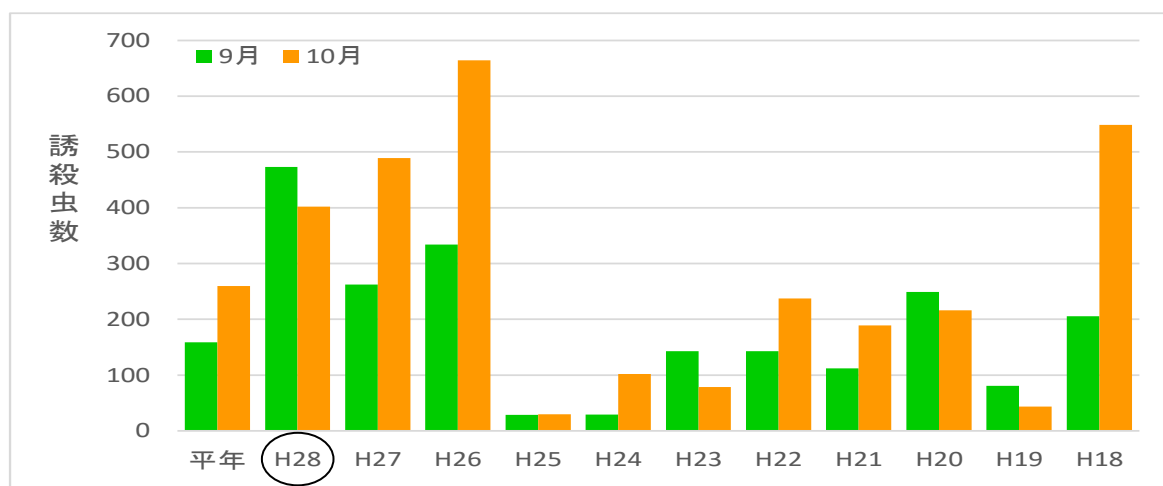


図1 期間中の誘殺状況（フェロモントラップ：かほく市 内日角）



注) 10月は4半旬までの数値

図2 9～10月の年度別誘殺状況（フェロモントラップ：かほく市 内日角）

3. 発生状況

病害虫防除室では、かほく市内日角にフェロモントラップを設置し、発生消長を調査しています。今年の5月～10月4半旬までの誘殺数は平年の2倍で、ここ3ケ年は9月～10月下旬の第3世代の誘殺が増大し、越冬世代の発生も多くなっていますので、来年も注意が必要です。ぶどうで被害が特に問題になる時期は、開花期前後の花穂、果粒肥大期～成熟期の果房（無袋栽培、袋かけが遅れた有袋栽培）ですが、この時期に発生が多くなる可能性があります。

4. 防除対策

(1) 薬剤散布

ぶどうでは袋かけ直前に必ず実施し、袋かけは遅くとも7月中旬までに行います。

中齢以降は綴った葉の中に潜み、効果が低下するので、葉巻きが進展していない若齢幼虫期に防除します。

(2) 性フェロモン剤の設置（薬剤散布と併用します。）

ハマキコンNを枝などにかけて、交尾を連続的に阻害し幼虫密度を低下させます。